

平成 24 年 12 月 25 日発行

ゆきつばき通信

第 155 号

大町山岳博物館友の会



行事のご案内

会場変更 大町公民館分室 学習室 終了時刻変更

【総会と総会記念講演会】

「アーネスト・サトウと武田久吉」

金子靖夫 先生

《期 日》 3月10日(日) 午後1時00分 ~ 3時30分 (時間延長)

《場 所》 大町公民館分室 学習室 (注意 山博ではありません)

《参加費》 無料 (一般公開)

《内 容》 金子靖夫先生は、1958年にNHKに入り、報道部、映像取材部他海外特派員としてボン支局、ロンドン支局等に勤められた後、富山国際大学で幕末・明治日英交流史、情報メディア論を専門として教鞭をとり、2005年からは白馬村に在住されています。ロンドン支局時代にアーネスト・サトウの文献に触れ、以後研究を続けておられます。日本マス・コミュニケーション学会会員 日本山岳文化学会会員。

アーネスト・サトウは19歳で日本語通訳として1862年にイギリスから来日。日本国内を旅行、登山したことを初めて外国人向け英文ガイドブックにしました。ウエストン来日の約20年前のことになります。武田 兼と結婚、二男の武田久吉は「原色日本高山植物図鑑(全2巻)」発行、尾瀬の自然保護活動、日本山岳会創設等に係わっています。大町山岳博物館には親子の功績が展示されています

平成 25 年度山博友の会 総 会

記念講演に引き続き、25年度総会を行います。友の会の活動をより有意義にするために、ぜひ多くの方にご出席いただき、意見を交換いただきたいと思います。

《期 日》 3月10日(日) 午後3時40分 ~ 5時40分 (時間変更)

《場 所》 大町公民館分室 学習室

《内 容》 平成 24 年度の事業報告・決算報告 平成 25 年度の事業計画・予算案
役員改選 その他、会員からの提議に関する協議・決議
事業・行事へのご提案ご意見ご希望をお願いします。

※夕方 6 時 30 分頃より市内（喜多さん）で博物館の職員の皆さんを交えて懇親会
を予定しています。当日お申し込みください。会費 5000 円

※平成 24 年度の「ゆきつばき」を配布いたします。

総会・講演会の会場のご案内

大町公民館分室 学習室（東町・保健センター）

徒歩の方は、県大町合同庁舎の南です。車の方は、博物館通りからは神栄町交差点を北に 200
m 余り、北からは県の合同庁舎の南 50m ほどのところ。駐車場も建物の西側になります。

友の会作品展

《展示期間》 2/17（日）午後～3/31（日）

《場 所》 大町山岳博物館 喫茶売店こまくさスペース

《搬 出》 搬出は 3/31（日）夕方以降になります。

【山岳博物館より企画展・行事等のご案内】

「さんぱく☆ぎゃらりーアニマルウォッチング」

■会 期 平成 25 年 3 月 5 日（火）～28 日（金）

※会期中の土曜日・日曜日はお休みです。

■開館時間 午前 9 時～午後 5 時 ※最終日は午後 1 時まで

■会 場 大町市役所 1 階 ホール

報 告

【自然観察登山】 魅惑の餓鬼岳・餓鬼のコブ・唐沢岳

9 月 1～2 日 参加者 13 人

中畑 清貴

今年の春先に登山道沿いの白沢上部で土石流があったらしく、7 月 1 日の下見登山
の時には一部の登山道、栈道が流されていて計画通り 9 月 1 日に登れるか不安でした
が、8 月下旬の下見では新しい高捲き道ができており栈道の補修も進んでいるよう
でしたので予定通り 9 月 1 日に登り、翌 2 日に下山しましたので報告します。

9 月 1 日朝 6 時 30 分大町市役所駐車場に参加者 13 名全員が集合、3 台の車に分乗
して登山口駐車場に 6 時 50 分頃到着。身なりを整え、準備運動をして 7 時 15 分に
宮野館長先導で登り始めました。天候は時折日の射す曇天で、メンバーのほとんどが
60 歳以上であることからゆっくりのペースで白沢沿いの樹林帯を、アップダウンを
繰り返しながら約 1 時間登り、紅葉の滝を過ぎて沢に下り左岸に渡ったところで小休
止。ここで宮澤会長から、燕岳等この辺の山一帯でよく見られ、乳川、白沢の名前の

由来となっている白みが強く結晶が大きい花崗岩について、過去の火山活動により地下深部で生成されてその後の造山運動で岩盤が露頭して浸食を受けたもので有明型と云われている、との講義を受ける。10分ほど休んで更に白沢を登り、左岸に渡り返すと魚止めの滝が見えてくる。そのまま左岸を高捲きして滝上部の沢に下り、補修間もない仮橋を渡る。去年まできれいだ



ったナメ滝は土石流のため大岩があちこちに転がる河原となっており、沢沿いの栈道も流されて無残な荒れ様となっている。新しくつけられた高捲き道を登り、河原に下りて左岸に渡渉し、更に登って9時半頃最終水場に到着して小休止を取る。ここから白沢を右に分けて大風山を目指してひたすら登るが、ガレ場に差し掛かる手前から雲行きが怪しくなり、霧がかかったと思ったら小雨となってガレ場を越えたところでレインスーツを着ての登りとなる。時折本降りとなっても樹林に遮られてか雨粒が直接体に当たることも無く割と楽な気分登るが、この雨で体が冷えたのかメンバーの1人が右足の不調を訴えたため荷物を数人で分担して背負い、要所で宮野館長が彼女を引き上げ、中畑が後ろからサポートするという形でペースを落として登りを続行し、12時過ぎ大風山の山頂標識を過ぎた尾根筋で昼食をとる。雨は相変わらず降ったり止んだり、ここから大風の尾根が少し下りとなり、登り返して餓鬼岳の大崩の右側の支尾根に取り付く。不調者をサポートしながら登って2時頃百曲がりの手前で小休止を取る。百曲がりを休みやすみ登って夏にはお花畑となる辺りに差し掛かる頃から雨が小止みとなり、もう一息と不調者をなだめながら登って何とか3時50分頃小屋にたどり着いた。濡れた衣服を着替え、5時頃から夕食ということで、(小屋は食堂と寝室兼用のため)支度ができるまで、と外で一杯やることになった。雨は上がったものの、寒さに震えながらの宴会は盛り上がり様も無く早々に切り上げて小屋に戻り、5時からおでんをおかずに夕食をとる。当日は我々13名の外に小屋に2名、テント泊で数名しか居らず、1人1枚の布団でゆったりと寝ることができた。

ここで今後餓鬼岳小屋を利用したい方へのアドバイスを3つ。1つ目はトイレにはペーパーがないので持参すること。2つ目は小屋では飲用、料理、洗い物、洗濯掃除等雨水に頼っており、節水のため食事の箸は割り箸を、朝食のおかず入れは使い捨てのトレーを使用していますのでできるだけマイ箸、マイ湯飲みを持参すること。3つ目はテント場のスペースは4張りほどしかないのでテント泊希望者は小屋に事前に確認すること、です。

翌2日は朝4時に起床、布団を片付けて5時に朝食をとり、昼食のおにぎりを各自受けとる。外の天候は、雨は止んだものの曇っていて霧がかつてもいる。予定では

健脚者は唐沢岳往復を、自信のない人は西餓鬼岳や剣ズリを散策することになっていたが、どうしても行きたいというメンバーもおらず、不調者も思ったほど回復していないことから宮野館長、宮澤会長と話し合っ6時前に予定を取りやめることをメンバーに伝える。7時過ぎ12名で餓鬼岳頂上に登り記念写真を撮って、8時過ぎに宮野館長を先頭に小屋を出発、不調者が転倒しないようサポートしつつ、道すがら有川さんに草花の名前を覚えてもらったりしながら休みやすみの和やかな下りとなる。12時頃水場に到着して昼食を取る。ここまで下ると天候も回復してきて時折晴れ間から陽射しものぞくようになり、気分的に少し楽に下れるようになってくる。3時頃、わざわざ迎えに登ってきてくれた川崎さんと出会うと疲れが見えてきたメンバーの顔色に明るさが戻り、その後は一気に下って3時半には登山道入り口の標識に着いて互いに無事に下山できたことを喜び、全員で記念写真を撮った。

今回は悪天候下での登山となり、予想以上にメンバーも疲労したり不調者も出たりで所期の目的は達成できませんでしたが、外部に救援を頼むことも無く1人の落伍者も出さずにメンバー全員の協力で無事下山できたことは大きな成果であり、みなさんに感謝します。

【塩の道を歩くⅩⅡ】切久保より佐野坂へ・白馬山麓ルート

10月6日 参加者13人
関 悟志

友の会「塩の道を歩く」では、平成19年に日本海をスタートし、西回りコースによって北から南へ毎年リレー形式で千国街道をたどっています。12回目となる今回は、白馬村切久保から佐野坂へ至る約13km、白馬連峰を仰ぎ見ながらの山麓コースを約7時間半かけて歩きました。この催しは例年6月の開催でしたが、今年は屋久島行きの催しがあったため、この時期となりました。

当日の参加者は13名。例年通り講師には、元大町市文化財センター文化財指導員・相澤亮平先生をお招きしました。大町市役所駐車場に集合し、マイカーに乗り合っ岩岳スキー場へ。「牛を馬に乗り換える」「馬を牛に乗り換える」という荷継ぎ地点であった本ルートの概要を相澤先生からご説明いただき、スタート。曇り空のもと、ほとんど汗かくこともなく快適に歩きました。途中、白馬連峰も雲間から顔を出してくれ、秋の山麓風景を楽しみながらの古道探訪となりました。

最初の探訪ポイントとなった観音原石仏群では、芝原の周囲に187体の以上の石仏が整然と配列された姿に息をのみました。西国・坂東・秩父の各百番観音像が札所番号順に並び、ぐる



っと一周たどることで、各地の霊場巡礼と同じご利益があるとのこと。一同、巡礼を済ませて、パワースポット!?!のような芝原の中央で記念撮影（写真）をしました。

各探訪ポイントでは相澤先生から詳しく説明いただき、千国街道をめぐる往時の様子や当時の人びとの信仰心や価値観などにふれることができました。また、丸山卓哉会員からは途中、白馬連峰周辺の地形・地質や災害について説明をしていただき、ダイナミックな大地の様子も知ることができました。

参加者の皆様、お疲れ様でした。来年はいよいよ大町に入るコースとなります。

(担当運営部員 中畑・関)

《参考コースタイム》

白馬岩岳スキー場駐車場	8:05 出発	飯森・飯森神社 飯森道標	12:00 昼食
切久保・新田・観音原石仏群	8:15	長谷寺	13:00
首切坂	8:50	飯田・北原庚申塚石仏群	13:40
新田～白馬町・松川	9:35	犬川端の庚申塚	14:05
白馬町・平川神社	10:05	沢渡・北原石仏群	14:45
薬師堂石仏群	10:45	南原庚申塚 雪崩遭難供養塔	15:00
深空・空峠の石仏群 牛方供養塔	11:20	佐野・二僧塚	15:10
北城・神城の境界・平川	11:30	白馬さのさかスキー場駐車場	15:35 到着解散

【伝統技術を学ぶ】「かんじき」を作る

11月17日 小谷村おらが里 参加者 10人

塩瀬淳也 西沢泰夫

10月実施の予定が変更になった為多少の増減はあったもののほぼ当初の参加数となり、8時に大町市役所に集合して小谷へ向かった。

小谷温泉口から約2km、左手に看板があり、狭い急坂の上に煙が立ち昇る。本日はここ“おらが里”で作業する。既にドラム缶を半切りにした鍋でかんじきの枠となる材料が煮られている。

まず、おらが里主人山本国弥さんから、作製中や完成物のかんじき及び参加者持参の2種のかんじきを示しながら、爪かんじきは春先、雪が落ち着いた時期の堅雪や溶けかかったザラメ雪に使うものである、爪は長くすると足に引っ掛かって使い難い等の話、そして、かんじき作りの最大の要点は如何に形よく枠材を曲げるかの作業であるなどの話を聞いた。

今回はかんじき枠にジシャ（アブラチャン）を使うが、その他クロモジ、ウリハダカエデ等でもよいという。材料は太さ1.5～2cm長さ約60cmの枝材である。枠は加熱して曲げる。火に炙っても可能であるが、曲げは一か所で強く曲げずに広い範囲で曲げてゆくと良く、従って、煮ることができれば均一に熱を加えることができ具合が良いという。曲げた枠を固定しておく台が作られており、そこに曲げた枠を差し込んでいく。枠固定台に人数分、前後各20本ができたところで昼になった。

旧家屋で昼をとということでお邪魔すると、そこには囲炉裏があり、自在鉤に掛かる鉄瓶では湯が沸いている。奥さんがきのこ汁を用意してくれており、他に大根などの煮物、かぼちゃの煮つけ、生姜漬けなども出てきて恐縮。壁際に所狭しと並んでいる古道具の中で昼食を摂った。

食後、枠固定台上の枠を麻ひもで開かないように縛って外し、枠に付着している木

皮をナイフで削ぎ取り、また、再度鍋の湯に漬けて浮かせて剥ぎ取る。

その後、各自、組み合わせる左右・前後の枠を選んだ後、爪を付ける為の細工、針金による枠の固定へと進むべき所であったが、雨足が増して作業空間的にも時間的にも作業完了は困難と考えられたため、その後の作業の説明を受けて、各自、自宅で作業を進めること



として終了とした。なお、爪を挟んだ前後の枠を固定する針金、枠に張る麻縄を担当幹事が預かっていたので、12月16日山岳博物館に集まり、互いに教え合って完成させた。

※ 爪材に丈7cm×幅2.8cm、厚さ1.2cmの木片が用意されたが、これを前後の枠が重なる箇所に挟み込むことになる。爪は枠下に2cm出るようにする。長く出すと足に引っ掛かって歩きにくくなるので、長くても3cmまでとするように注意。

ボランティアサークル便り

9月16日企画展「スイス山岳観光の黄金期と日本人—その魅力文化を伝えた人々」：「モンベル」代表辰野勇さんをお迎えしてトークショーがありました。講堂一杯のお客様に来場いただき、6名のボランティアが受付、会場後片づけなどを行いました。辰野さんからは1969年のアイガー北壁登攀やカヌー・カヤックの事、会社設立や山仲間の事などのお話をしていただきました。アウトドアでの経験をいかした災害支援活動もされており、普段は教室で座布団になっている救命胴衣を開発されています。最後に横笛を披露いただきました。また、抽選会ではボランティアの川崎さんが登山用品を当てる等楽しい場面もありました。ところで、「モンベル」の名の由来ですが、ご本人からの珍説(真説)をうかがうことができました。

環境整備関係：9～10月は主にサクラソウポットに生えた雑草引き、湿地植物園(友の会植物園)、山岳図書資料館周辺の除草を行いました。今年は、サクラソウを雑草から守る、湿地植物園(友の会植物園)の除草をして来館される方々に楽しんで頂ければと毎月第2日曜日を作業日に決め実施してきました。毎月草取りをしていましたが、植物の発芽、成長には勝てませんね。新しい雑草が次々成長し好奇心が生まれました。「これは抜いてもいいですかー、名前は?こんな所まで種が飛んできて芽を出すなんてビックリ・・・」千葉学芸員からアドバイスを受けながらの作業となりました。

作業をしている私達に植物についての質問、山の名前、お食事処など博物館周辺に関する事等聞かれる場面もありました。来館された方々、ボランティア同士会話を楽しみながらの作業となりました。終了後は喫茶「こまくさ」の美味しいコーヒーを頂

きました。仙波さんいつもおいしいコーヒーをご馳走さまでした。

来春に咲くサクラソウに期待しながら、10月14日をもって一応屋外でのボランティア活動は終了しました。ご協力有難うございました。3月までは屋内での研修会、館内ガイド等があります。興味のある方は山岳博物館までご連絡下さい。

事務局担当：有川美保子

お詫び

会員様からのご指摘により「山と博物館」が届く一方で、「ゆきつばき通信」が届いていない会員様がいることが明らかになりました。

このため、ご指摘いただきました会員様以外にも同様のことが発生している可能性がございます。お手元に、今年度(153号・154号)の「ゆきつばき通信」が届いていない会員様は、大変お手数ですが、友の会事務局までご連絡くださいますようお願い申し上げます。

以後、このようなことが発生しないよう努めてまいります。

この度は、大変申し訳ございませんでした。

ゆきつばき通信編集室より _____

いろいろありながら2012年もさっさと暮れていきます。皆様にはどのような一年だったでしょうか。友の会もさっさと平均年齢が上がり、5年後、10年後の姿はいかなるや、年ごとに不安も増してきます。こまくさも地域を訪れる方々の伸び悩みに財布の固さが加わり、ぎりぎりの営業をしてきました。

今回は、実質的に次年度行事のご案内となります。総会にも多くの会員にお越しいただき建設的なご意見をいただければと思います。そして、少し変われそうな2013年を迎えたいと思います。

ゆきつばき原稿、まだ間に合います。詳しくは前号をご覧ください。

(丸山卓哉)

ゆきつばき通信 第155号 (ver.2)

発行／大町山岳博物館友の会 平成24年12月25日 25/2/28

〒398-0002 長野県大町市大町 8056-1

大町山岳博物館内 山博友の会事務局 Tel/Fax 0261-23-6334

会費振替口座番号 00550-2-24194 加入者名 山博友の会

山博ページ <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/>

友の会ページ <http://www.city.omachi.nagano.jp/sanpaku/tomodown.htm>